

指標名: 鉱工業生産指数(2008年5月)

発表日2008年6月27日(金)

～当面、横ばい圏内の推移が続く見込み～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL : 03-5221-4528

○ 4-6月期はマイナスへ。予測指数はまずまず

5月の鉱工業生産は前月比+2.9%と3ヵ月ぶりに上昇し、ほぼ事前コンセンサス(+2.7%、レンジ▲0.2%～+3.5%)通りの結果となった。単月では上昇したものの、4、5月平均の1-3月期比は▲0.5%となっており、予測指数も踏まえると4-6月期は1-3月期に続いて2四半期連続の低下となる可能性が高い。輸出の減速や景気の先行き不透明感の強まり等を受け、企業が生産活動に慎重になっていることが確認された。

一方、予測指数については、6月が前月比▲0.9%、7月が同+2.2%とまずまずの結果。5月の伸びが高かった割に6月の反動減は限定的、7月の上昇率も高めである。仮に予測指数通りの値が実現すれば、7月の水準は4-6月期を+2.6%上回ることになる。実際にここまでの上昇となることはないだろうが、7-9月期が小幅プラスになる可能性は十分ある。均してみれば、生産は概ね横ばい圏内で推移しているといつてよいだろう。

○ 当面、横ばい圏内の推移が続く見込み

業種別では、情報通信機械(前月比+10.2%)、電子部品・デバイス(前月比+3.1%)、輸送機械(前月比+9.3%)などの上昇が目立った。IT関連財は2008年入り以降、IT輸出の減速や部品価格下落に伴う生産抑制の影響から落ち込みが目立っていたが、5月については比較的大きく持ち直した。もっとも、電子部品・デバイスの在庫率は上昇、出荷在庫バランスもマイナス幅が拡大するなど、IT分野における在庫調整圧力は引き続き強い状況にある。IT分野の落ち込みが今後の生産を抑制するリスクには十分注意が必要だろう。

ただし、予測指数をみると、情報通信機械が6月+5.7%、7月▲3.0%、電子部品・デバイスが6月▲1.0%、7月+1.2%と、概ね横ばい圏での推移が見込まれており、今のところ、先行き大きな悪化が予想されているわけではない。また、半導体部品市況の下げ止まりなど、IT関連財の需給環境改善を示唆する材料も存在する。この先調整が一段と深まることは避けられる可能性が高いのではないだろうか。

IT分野以外では在庫が積みあがっていないことも好材料である。その結果、鉱工業全体でみれば出荷在庫バランスはプラス圏にあり、在庫調整圧力は高まっていない。これらの点を踏まえると、鉱工業生産は、当面横ばい圏内の動きが続くと予想することが妥当と考えられる。

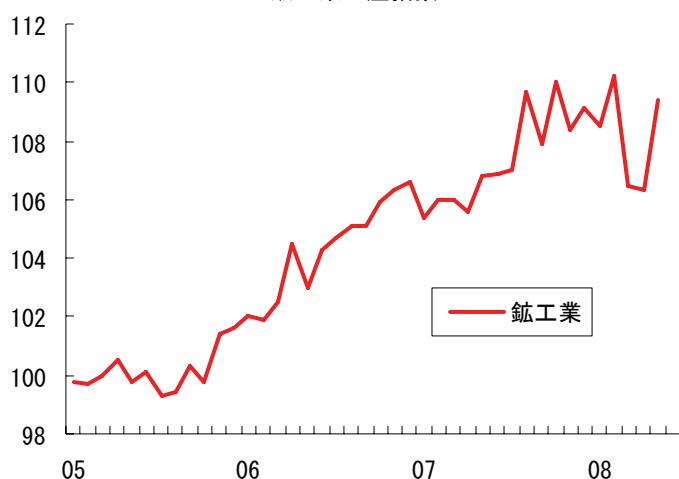
○ 資本財出荷は大幅上昇も、均してみればやや弱め

設備投資の動向と関連の深い資本財出荷(除く輸送機械)は前月比+7.1%と大幅に上昇した。ただし、4-5月平均の1-3月期比でみると▲0.3%であり、決して強いわけではない。輸送機械を含む資本財でも1-3月期比▲0.6%と同様の動きである。また、消費財出荷は前月比+0.9%と2ヵ月連続で上昇、4-5月平均の1-3月期比も+0.6%となっている。

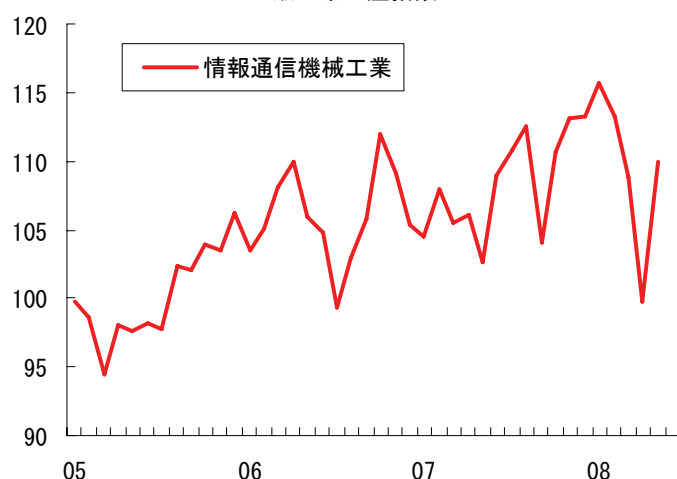
供給側からみた個人消費は比較的底堅いが、家計調査等の需要側統計がかなり下振れていることを考慮す

れば、4-6月期の個人消費は弱めとの評価になるだろう。設備投資は、横ばい圏もしくは若干の弱含みと
 いったところか。

鉱工業生産指数



鉱工業生産指数



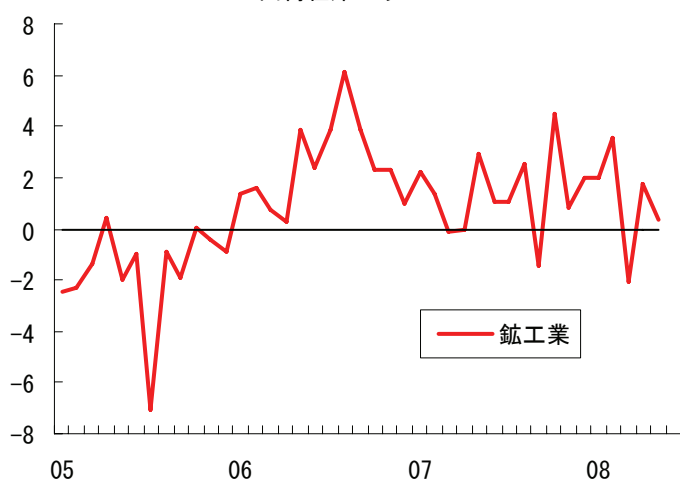
鉱工業生産指数



鉱工業生産指数



出荷在庫バランス



出荷在庫バランス

